

手順編

STEP1.フレーム取付準備 ▶34	STEP13.前板(取り付け) ▶70
STEP2.排水部材 ▶35	STEP14.ベビーチェア・ ボード部 ▶73
STEP3.大便器 ▶38	STEP15.幼児用小便器 ▶75
STEP4.セットタンク ▶40	STEP16.汚物流し ▶77
STEP5.フレーム ▶41	STEP17.汚物流し用 セットタンク ▶80
STEP6.フィラー固定材・ 側板(側板がある場合) ▶51	STEP18.便器洗浄ユニット ▶86
STEP7.汚物流し用 排水継手 ▶54	STEP19.タッチスイッチ ▶89
STEP8.止水栓 ▶55	STEP20.器具類 ▶90
STEP9.幅木 ▶60	STEP21.甲板 ▶91
STEP10.側面パネル・ 前板(準備) ▶62	STEP22.手洗器 ▶95
STEP11.フィラー ▶65	STEP23.大便器周辺器具類 ▶98
STEP12.洗面器 ▶66	STEP24.試運転・確認 ▶106

マーク表示について



手締めで
電動ドライバー使用禁止です。
手締めしてください。



下穴
下穴をあけてください。
(例:φ3の場合)



カット
カットしてください。



脱脂
脱脂用アルコールで
脱脂してください。



250mm以上の
ロングビット
ロングビットの電動ドライバーを
使用してください。



けがき
けがき
けがきをしてください。



水平確認
垂直確認
水平器で水平・垂直確認
してください。



塗布
塩ビ用接着剤を塗布
してください。
(例:塗布の場合)

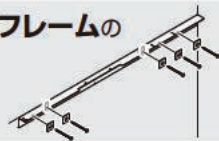
STEP1. フレーム取付準備

1 フレーム固定位置の 墨出し



▶P.34

2 大便器部フレームの 取付準備



▶P.34

1 フレーム固定位置の墨出し

- 商品の仕様を確認し、床壁固定位置を墨出しする
▶事前施工情報参照

【下地がコンクリートの場合】

- 樹脂プラグ用の下穴を開ける



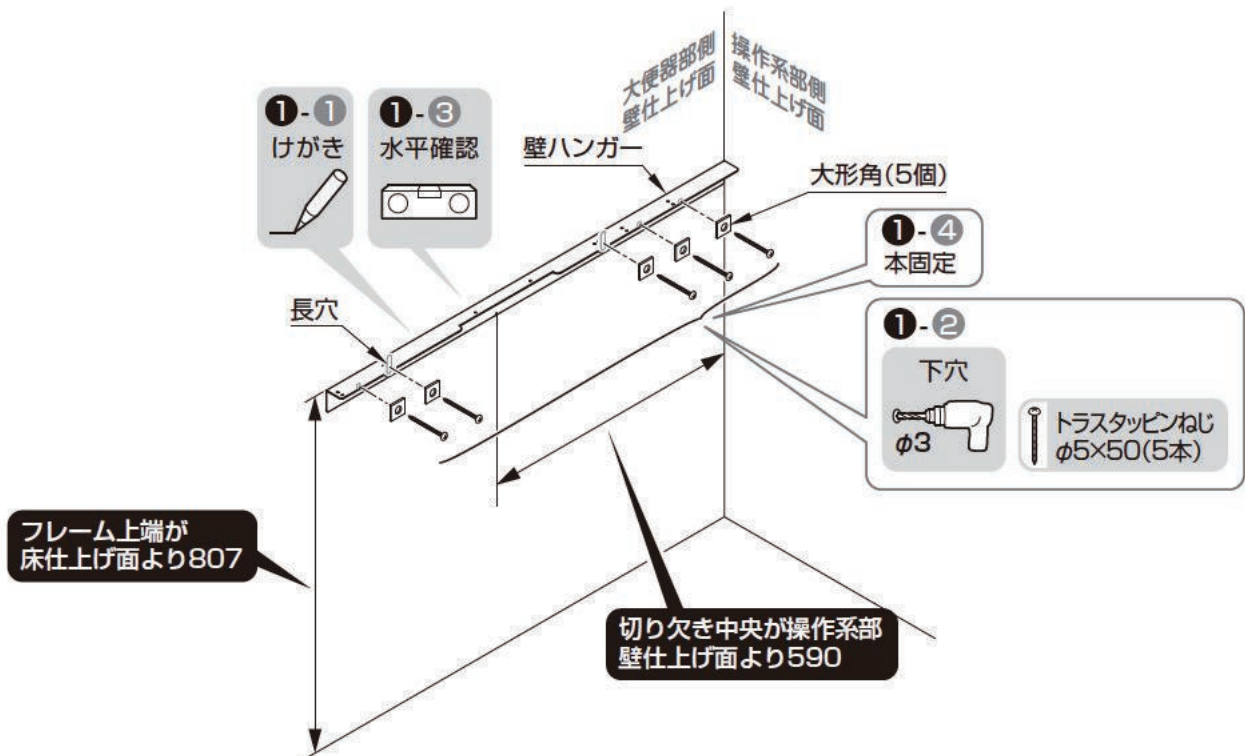
床下穴φ8
深さ55mm



2 大便器部フレームの取付準備

※大便器部フレームが他のフレームの基準になります。

- 壁ハンガーの取り付け



STEP2. 排水部材

2 排水部材

1 便器取付基準線、便器接続部中心、固定片取付穴位置のけがき

▶ P.35

2 床フランジの取り付け

▶ P.35

3 排水継手の取付準備

▶ P.36

4 排水継手の組み立て

▶ P.36

5 排水継手の取り付け

▶ P.37

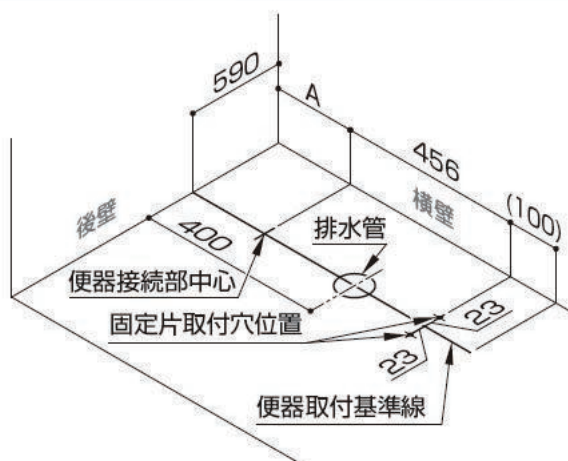
1 便器取付基準線、便器接続部中心、固定片取付穴位置のけがき

便器取付基準線、便器接続部中心、固定片取付穴位置をけがく
※便器取付基準線は排水心から取らないこと。

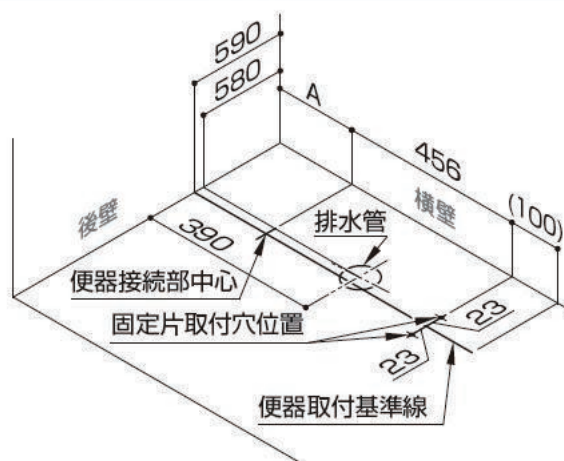
けがき

※鉛筆など
(あとで消せるもの)

排水位置が指定寸法通りの場合(横壁から590mm・後壁から400mm)

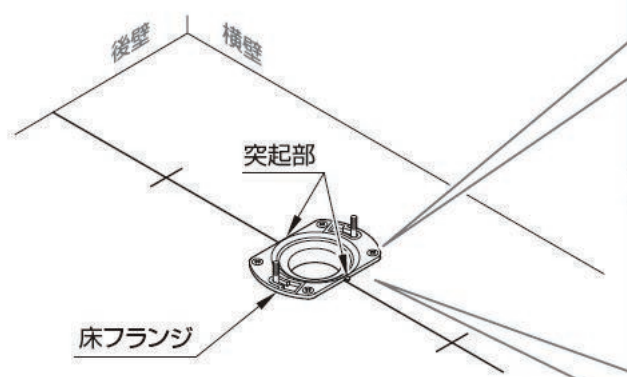


排水位置が指定寸法と異なる場合



	A寸法
車いす・オストメイト配慮セット(UADA系)、乳幼児連れ配慮セット(UADB系)	232
車いす使用者優先配慮セット(UADC系)	157

2 床フランジの取り付け



1 床フランジ固定用の下穴を開ける(4カ所)

※床フランジは突起部のどちらかが後壁を向くように設置してください。
※必ず樹脂プラグを入れてください。



床下穴φ6
深さ40mm

下穴

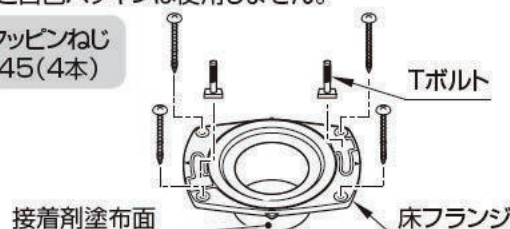


2 床フランジの取り付け

▶ 床フランジ施工説明書参照

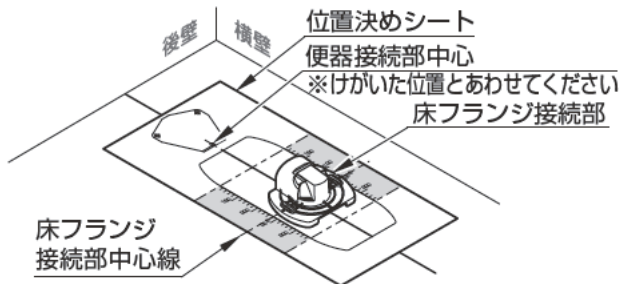
※パッキンと白色パッキンは使用しません。

トラスタッピンねじ
φ4.5×45(4本)



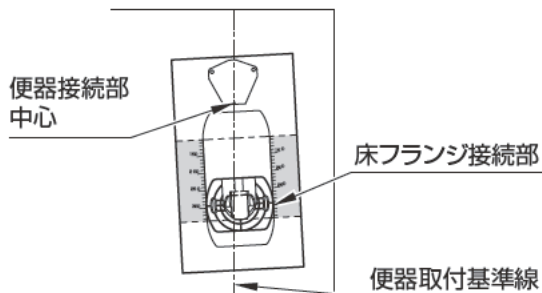
3 排水継手の取付準備

- ① 床フランジ接続部を床フランジの上に仮置きする
- ② けがいている便器接続部中心に位置決めシートの便器接続部中心をあわせて置く
- ③ 位置決めシートが床フランジ接続部と重ならないように、便器接続部中心を基準として置く

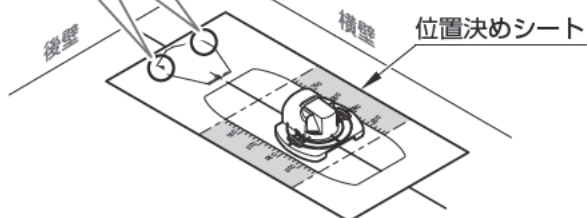


排水位置が指定寸法と異なる場合

- ※便器を取付基準線にあわせて設置するため、①でけがいた便器取付基準線に対して便器接続部中心を基準として斜めに取り付けます。
- ※床フランジ接続部が斜めになりますが、便器は取付基準線に平行に取り付けます。

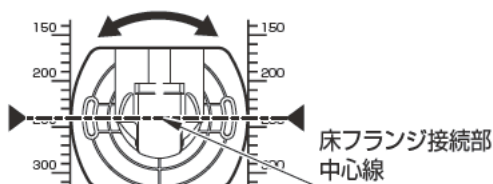


- ④ 便器接続部取付穴位置をけがく(2カ所)

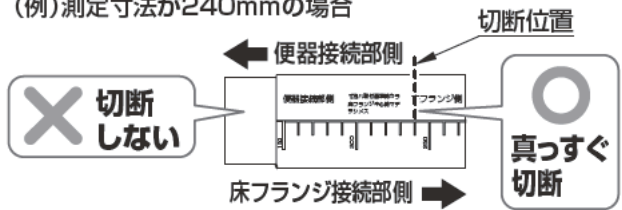


4 排水継手の組み立て

- ① 床フランジ接続部中心線の指す目盛りが左右同じになるように、床フランジ接続部を微調整し、目盛りを読む

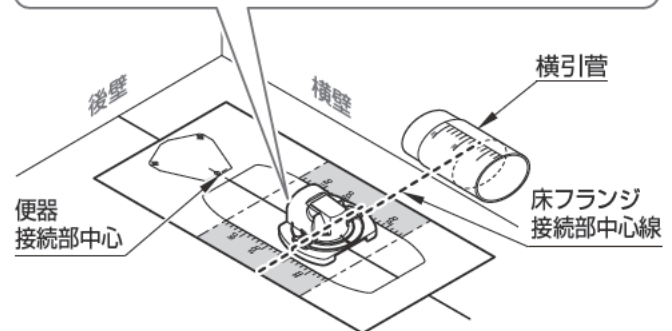


- ② 同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する
(例)測定寸法が240mmの場合



注意

- ❗ 必ず守る
- 切断後、バリを取り除く
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

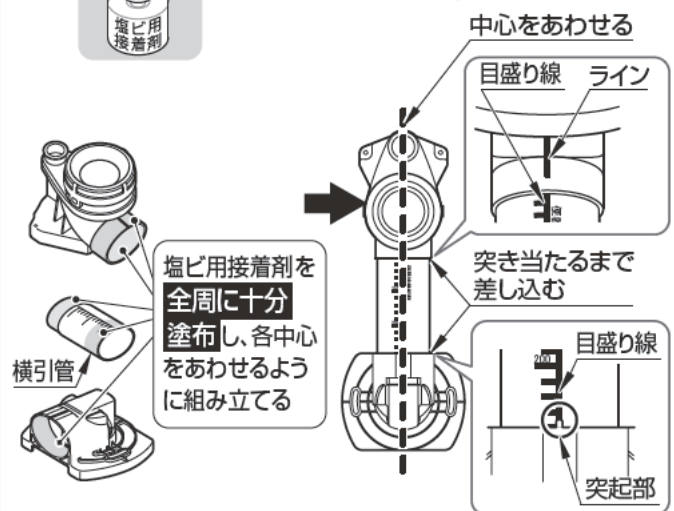


- ③ 排水継手の組み立て

全周塗布



- ③-① ラインと突起部を目盛り線とあわせて組み立てる



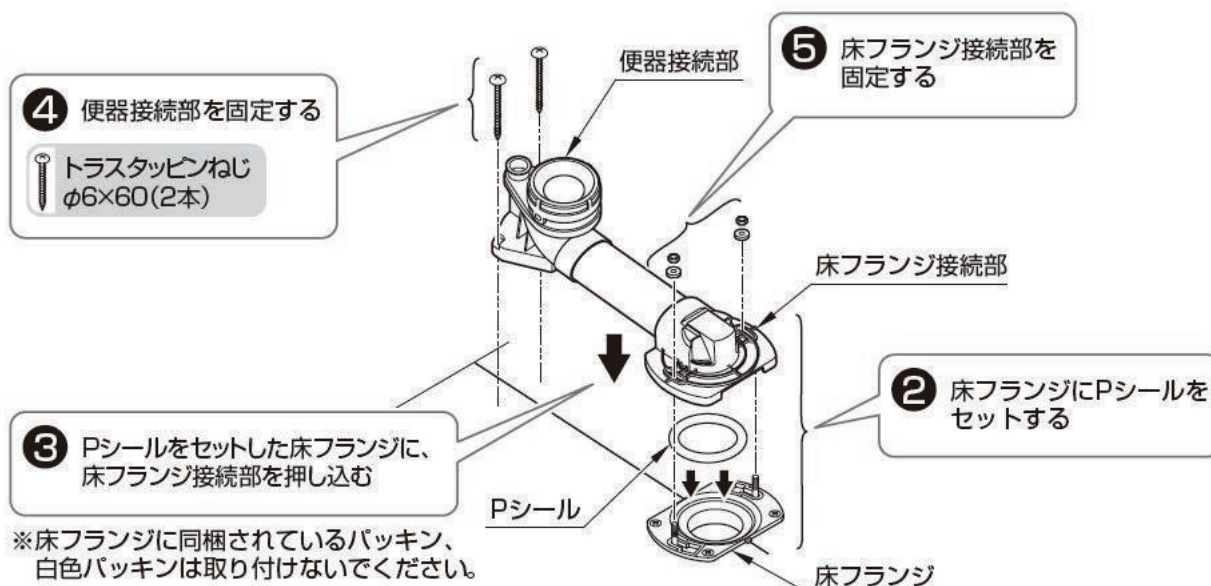
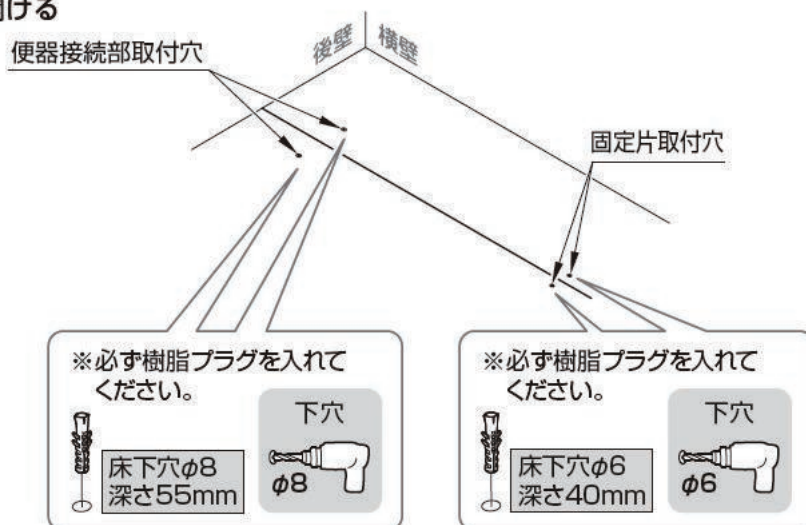
- ③-② 床フランジ接続部を仮置きして、ガタツキがないか必ず確認する

注意

- ❗ 必ず守る
- 横引管は中心をあわせ、最後まできちんと押し込む
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- 床面に対してガタツキがないように接着する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

5 排水継手の取り付け

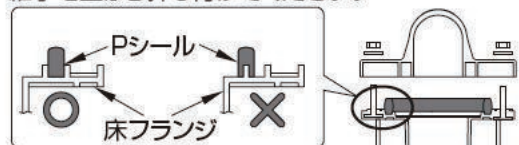
① 下穴を開ける



⚠ 注意

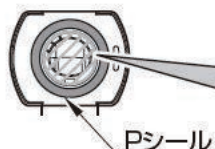
Pシール取り扱い上の注意

Pシールは必ずフランジ側にセットしてから、排水継手を上から押し付けてください。



Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

(床フランジ接続部裏面)



注意

斜線内にはみ出させない



必ず守る

STEP3. 大便器

1 大便器固定の準備



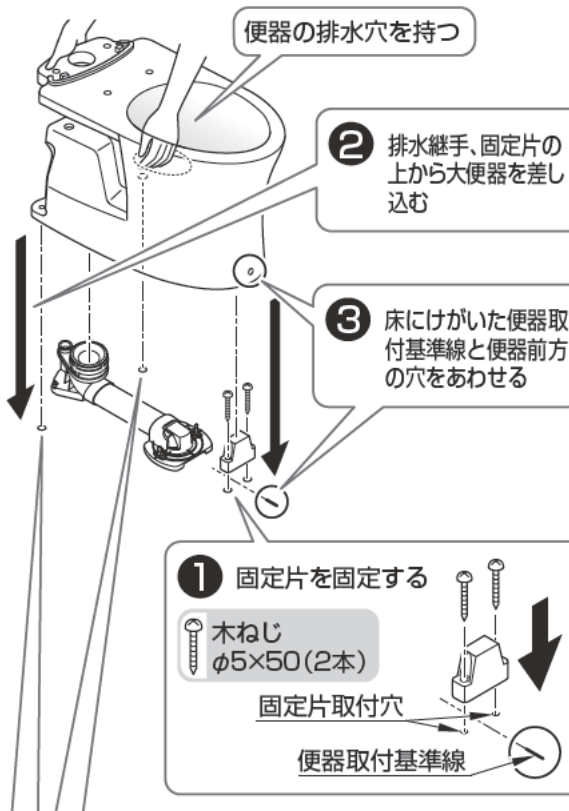
▶ P.38

2 大便器の固定

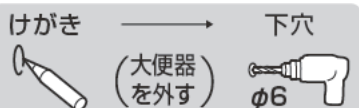


▶ P.38

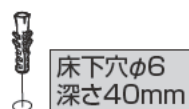
1 大便器固定の準備



4



※必ず樹脂プラグを入れてください。



床下穴φ6
深さ40mm

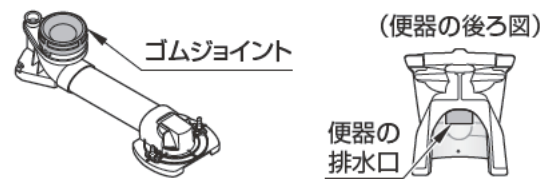
注意



結露防止カバー
(取り外さない)

2 大便器の固定

1 便器の排水口、ゴムジョイントのゴミや汚れをふき取る



ゴムジョイント

(便器の後ろ図)

便器の
排水口

! 注意

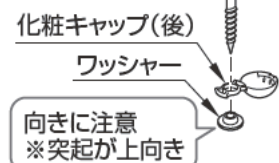


必ず守る

- ・便器後部の固定を必ず先に行う
前側の固定を先に行くと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。
- ・手締めにて行い、木ねじを締めすぎない
強く締めすぎると、便器が割れるおそれがあります。

4 大便器を固定し、化粧キャップを取り付ける

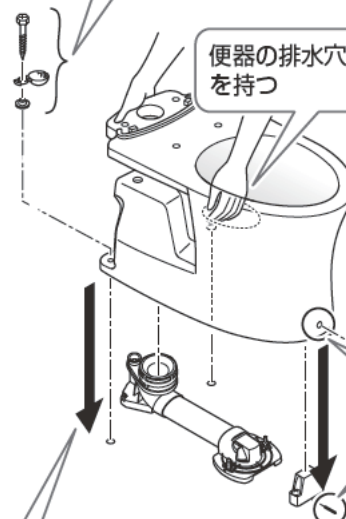
木ねじ
φ4.8×63(2本)



化粧キャップ(後)

ワッシャー

向きに注意
※突起が上向き



便器の排水穴
を持つ

5 大便器を固定する

皿木ねじ
φ5.8×56(1本)

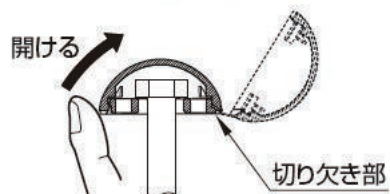
3 床にけがいた便器取付基準線と便器前方の穴をあわせる

2 排水継手、固定片の上から大便器を差し込む

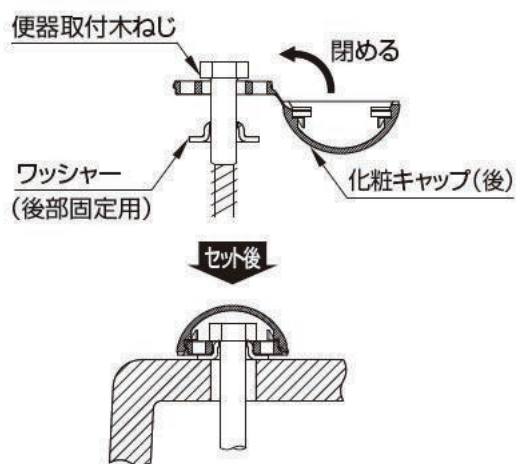
化粧キャップ付きねじの固定方法

【取り付けかた】

- 化粧キャップを開ける
木ねじを手で持ち、切り欠き部をよけて化粧キャップの下部を矢印の方向に指で押し上げる。

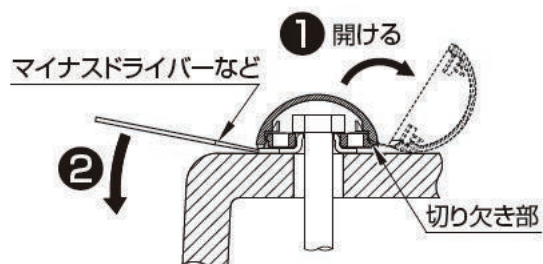


- 木ねじを取付後、化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。



【取り外しかた】

化粧キャップの切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。



サイドカバーは後工程で取り付けますので、大切に保管してください。

・サイドカバーの取り付け ▶ P.103 STEP23

MEMO

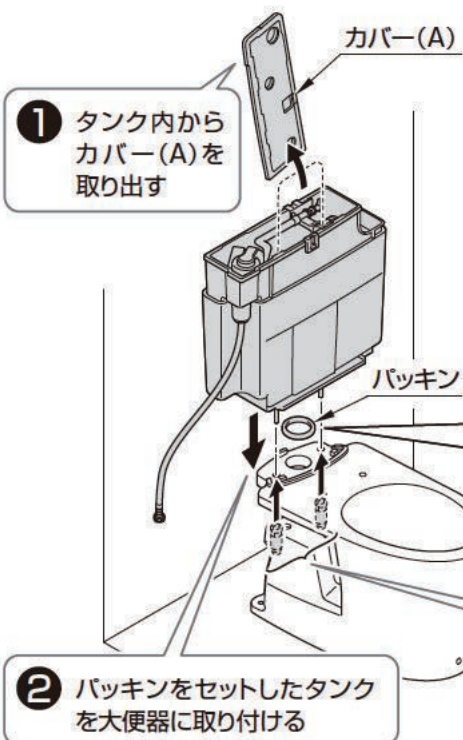
STEP4. セットタンク

4

セットタンク

1 セットタンクの取り付け

※右勝手、左勝手共通
※給水ホースは大便器向かって左側



注意



パッキンがセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

3 固定ナットを締め付ける

注意



必ず守る

左右の固定ナットを確実に締める
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
工具を使用すると破損するおそれがあります。

固定ナットを手締めでかたく締め付ける。



MEMO

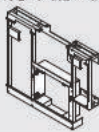
STEP5. フレーム

1 大便器部フレームの取付準備、取り付け



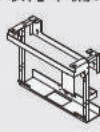
▶ P.41

2 操作系部フレームの取付準備、取り付け



▶ P.43

3 洗面器部フレームの取付準備、取り付け



▶ P.45

4 ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の連結材の取り付け



▶ P.46

5 ベビーチェア・ボード部フレームの取付準備、取り付け



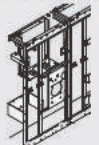
▶ P.47

6 幼児用小便器部フレームの取付準備、取り付け



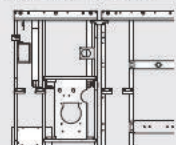
▶ P.48

7 汚物流し部フレームの取付準備、取り付け



▶ P.49

8 フレームの調整と本固定



▶ P.50

5
フレーム

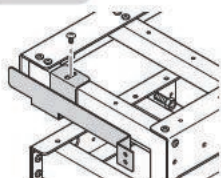
1 大便器部フレームの取付準備、取り付け

1 調整ねじの取り付け(フレーム準備)

①-③

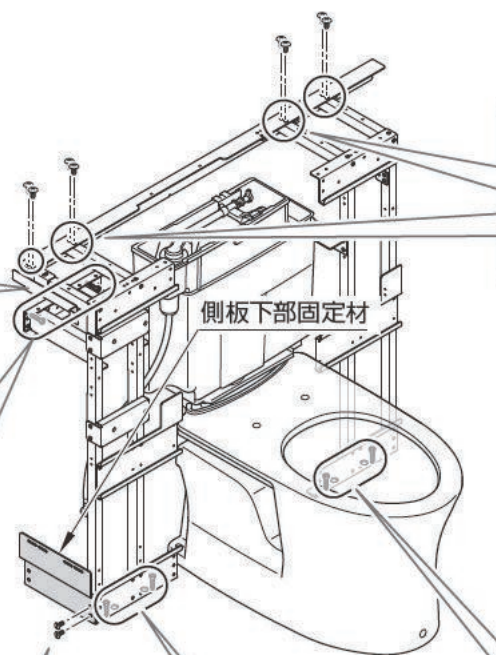
大便器部横に別のフレームが付く場合

バインドタッピンねじ
φ4×8(1本)



2 フレームと壁ハンガーの取り付け

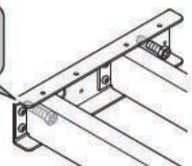
バインドタッピンねじ
φ4×8(8本)



①-②【上部】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

10mm程度
フレームから突き出す



①-③

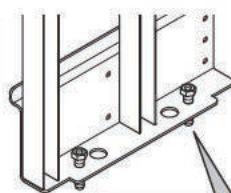
大便器部のみの場合

側板が取り付け側に、側板下部固定材を取り付ける

皿タッピンねじ
φ4×8(2本)
※車いす使用者優先配慮セットの場合、
側板下部固定材の形状が異なります。

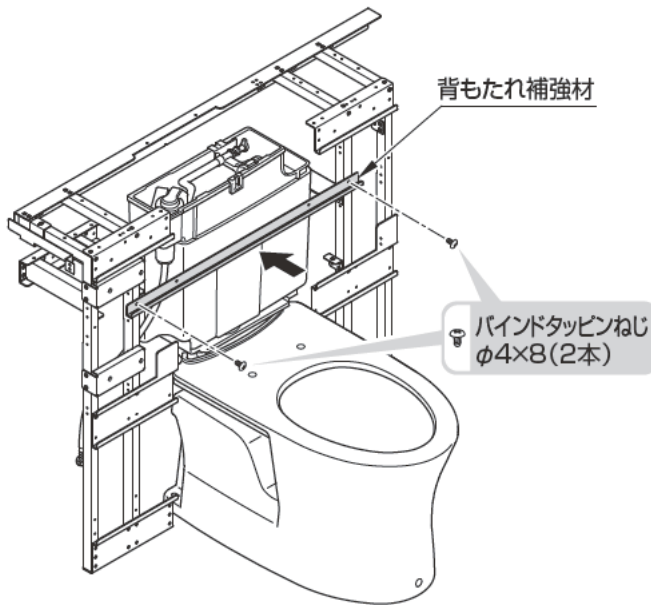
①-①【下部】4カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(4本)



15mm程度
フレームから突き出す

③ 背もたれ補強材の仮固定



④ フレームの調整

※あらかじめ床固定用下穴位置を確認してください。

④-② 水平確認



垂直確認



④-③

下げ振りまたは
レーザーなどで
垂直確認しながら
床のねじをと
める

④-①

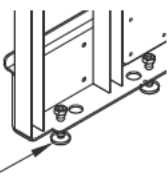
ねじ受材は両面テープ
で張り付ける



アプセットタッピンねじ
φ8×30(壁:2本、床:4本)

【壁】2カ所

【床】4カ所



⑤ フレームと横材の本固定

⑤-①

バインドタッピンねじ
φ4×8(8本)

⑤-③

【壁】2カ所

ねじ受材を張り付ける



アプセット
タッピンねじ
φ8×30(2本)



⑤-④ 【壁】2カ所

フレームを固定する

下穴



トラス
タッピンねじ
φ5×50(2本)

⑤-② 【床】4カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(4本)



⑤-④ フレームを固定する

トラスタッピンねじ
φ5×50(4本)

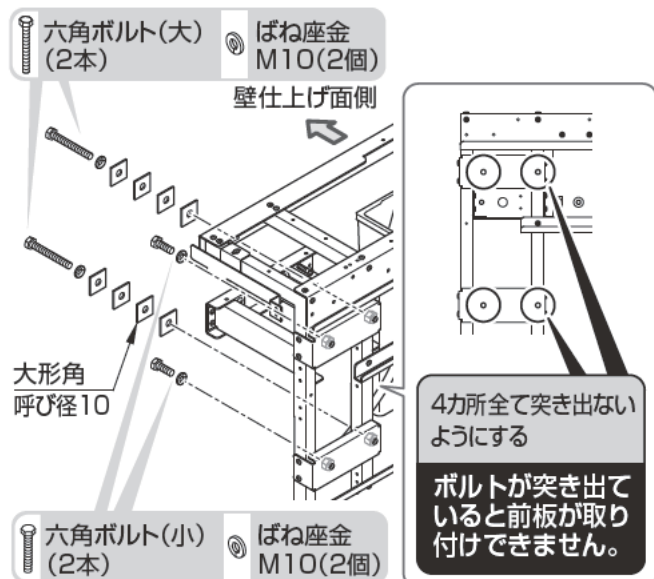
※必ず樹脂プラグを入れて
ください。



床下穴φ8
深さ55mm

※調整ねじの取り付け、フレームの水平・垂直調整、フレーム床壁
固定位置のけがき、フレーム取り外し、樹脂プラグ取り付け、
フレーム取り付けは、大便器部フレーム以外の各フレームも
同様に行ってください。

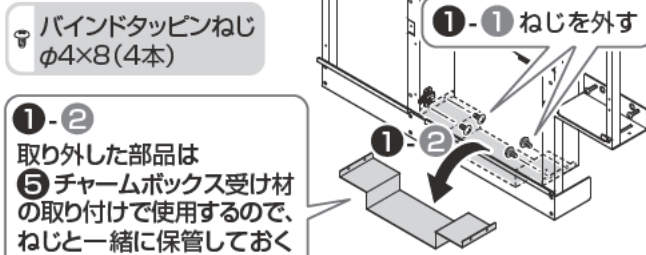
⑥ はね上げ手すり固定ボルトの取り付け



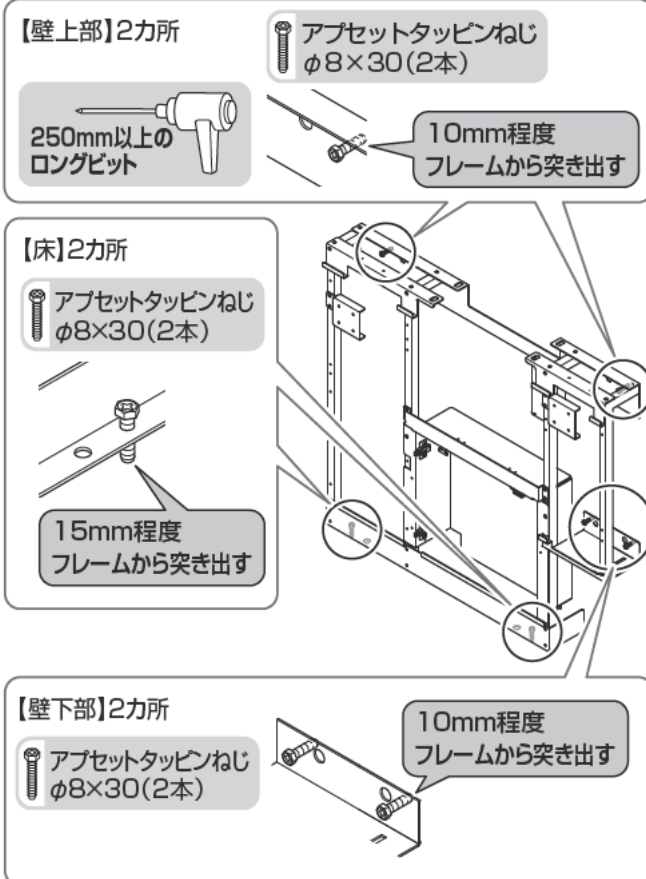
MEMO

2 操作系部フレームの取付準備、取り付け

① チャームボックス受け材を外す



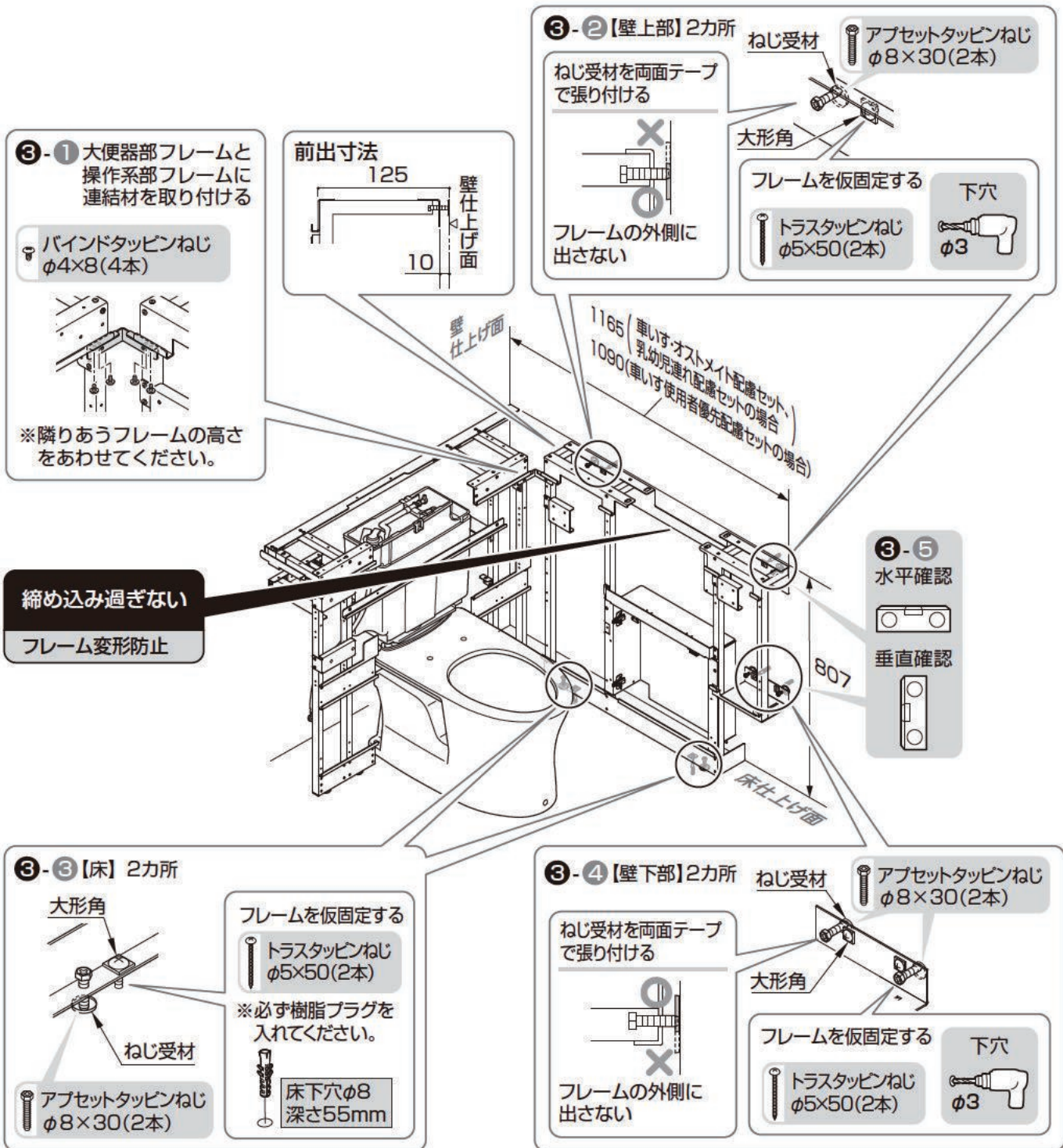
② 調整ねじの取り付け(フレーム準備)



MEMO

③ フレームの位置調整

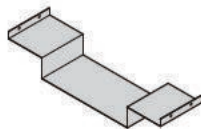
※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。



④ 仮固定のねじを本固定する

⑤ STEP5(P.43)で外したチャームボックス受け材を取り付ける

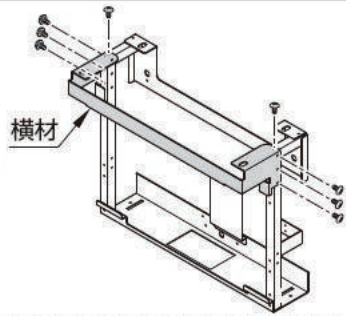
バインドタッピンねじ $\phi 4 \times 8$ (4本)



3 洗面器部フレームの取付準備、取り付け

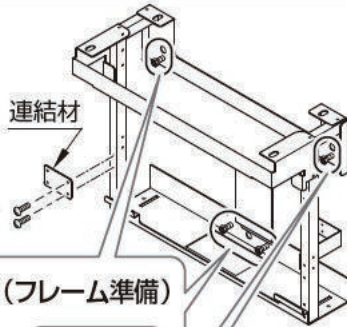
1 横材の固定

洗面器部フレームに同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8(8本)



2 連結材の固定

洗面器部フレームに同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



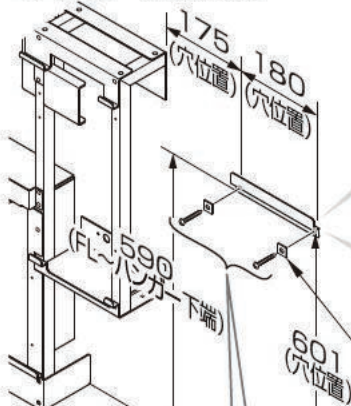
3 調整ねじの取り付け(フレーム準備)

アプセット
タッピンねじ
φ8×30(4本)

10mm程度
フレームから
突き出す



4 フレームハンガーの取り付け



4-1 けがき

4-2 水平確認

大形角(2個)

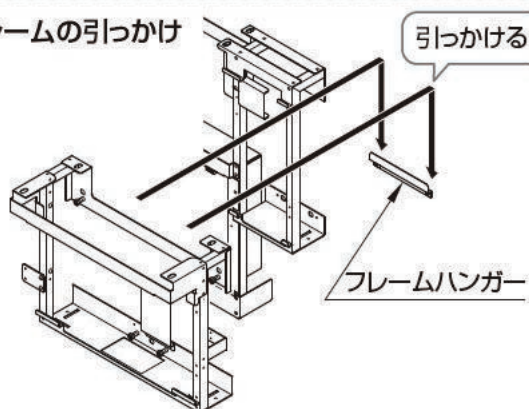
4-3 本固定

トラスタッピンねじ
φ5×50(2本)

下穴



5 フレームの引っ掛け



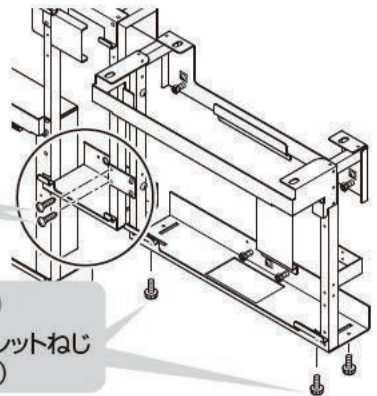
6 操作系部フレームと洗面器部フレームを連結する

6-1

バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)

6-2

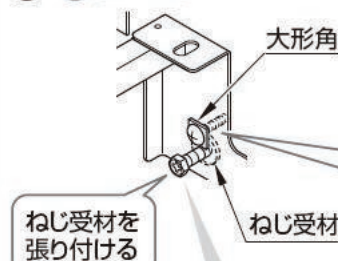
ローレットねじ
φ3(3本)



7 フレームの位置調整

7-1 ねじ受材を両面テープで壁に仮止めする

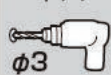
7-2 【壁上部】2カ所



7-5

フレームを仮固定する
トラスタッピンねじ
φ5×50(2本)

下穴



アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

前出寸法

225

10

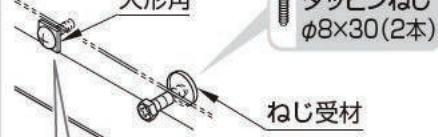
壁仕上げ面

7-4

水平確認 垂直確認



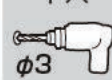
7-3 【壁下部】2カ所
大形角



7-5 フレームを
仮固定する

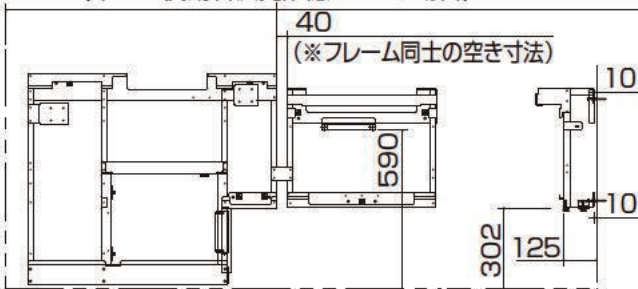
トラスタッピンねじ
φ5×50(1本)

下穴



フレーム調整寸法

1165(車いす・オストメイト配慮セット、乳幼児連れ配慮セットの場合)
1090(車いす使用者優先配慮セットの場合)



⑧ ネジを本固定する

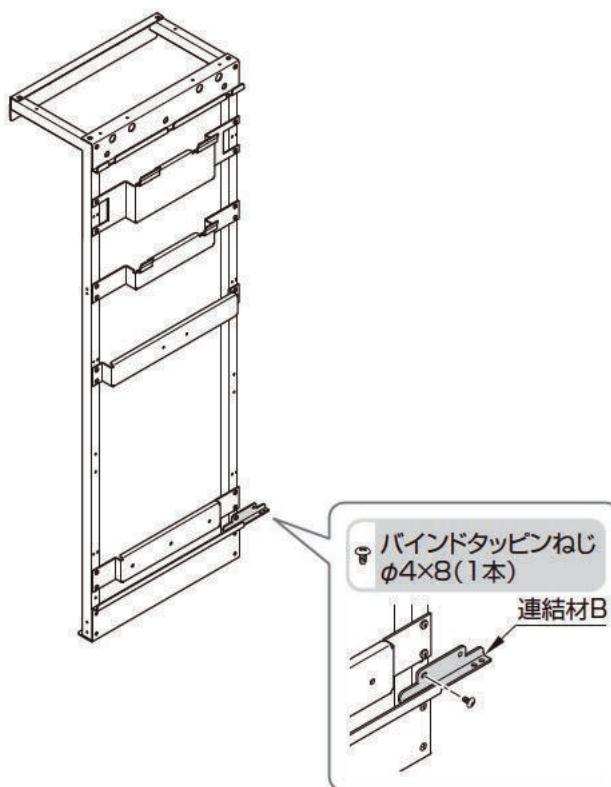
※大便器部のみの場合
P.52「STEP6. フィラー固定材・側板(側板がある場合) ③」
に進んでください。

4 ベビーチェア・ボード部、 幼児用小便器部、汚物流し部の 連結材の取り付け

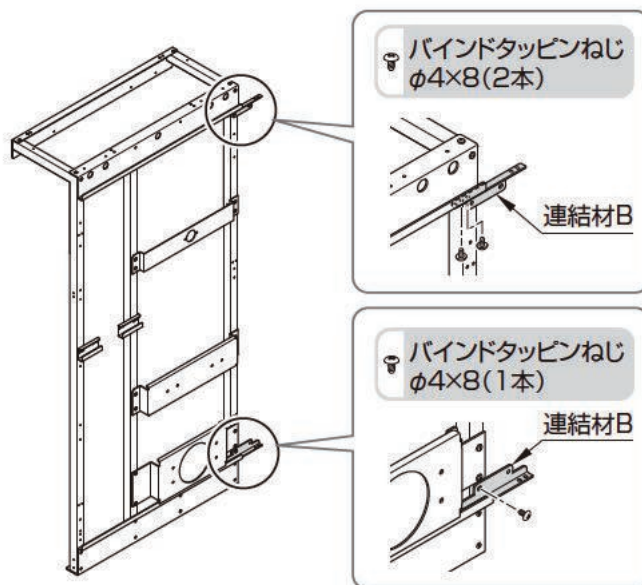
① 仕様を確認して、フレームと連結材を選定する

② フレームに連結材を固定する

【大便器部と連結する場合】
・連結材Bを固定する
※イラストはベビーチェア・ボード部の場合です。
※幼児用小便器部、汚物流し部のフレームの場合も同様です。

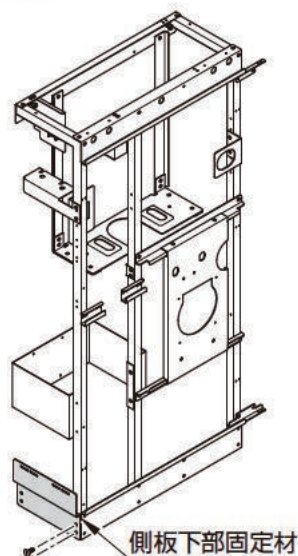


【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部と連結する場合】
・連結材B(2個)を固定する
※イラストは幼児用小便器部の場合です。
※汚物流し部のフレームの場合も同様です。



③ 側板下部固定材の固定

【側板がある場合】
・大便器部から最も離れている器具に固定する
※イラストは汚物流し部の場合です。
※ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部のフレームにも同様に固定が可能です。



側板がある場合

側板に同梱

皿タップピンねじ
φ4x8(2本)

5 ベビーチェア・ボード部フレームの取付準備、取り付け

① 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)

【壁】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

10mm程度
フレームから突き出す

250mm以上の
ロングビット

【床】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

15mm程度
フレームから突き出す

② 連結材の取り付け

・大便器部横と連結する

バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)

バインドタッピンねじ
φ4×8(1本)

※隣りあうフレームの
高さ・前出をあわせて
ください。

③ フレームの調整、仮固定

※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。

③-①【壁】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

ねじ受材を
両面テープで
張り付ける

フレームの外側に
出さない

ねじ受材 大形角

③-④ フレームを仮固定する

トラスタッピンねじ
φ5×50(2本)

下穴
φ3

前出寸法

仕壁 225
上げ面 10

③-③ 水平確認 垂直確認



③-②【床】2カ所

ねじ受材を張り付ける

※必ず樹脂プラグを
入れてください。

床下穴φ8
深さ55mm

③-④ フレームを
仮固定する

トラスタッピンねじ
φ5×50(1本)

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

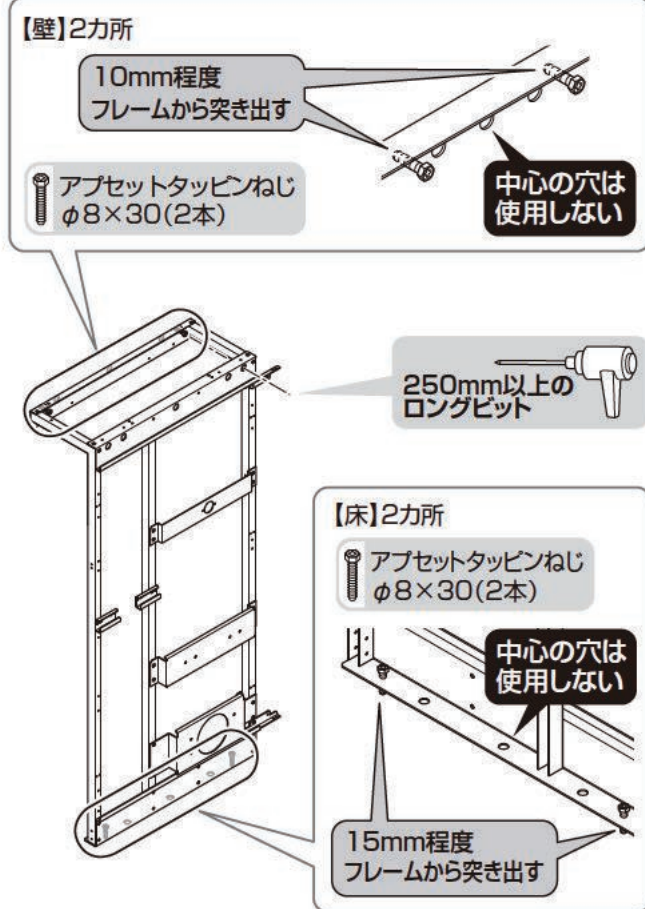
大形角

ねじ受材

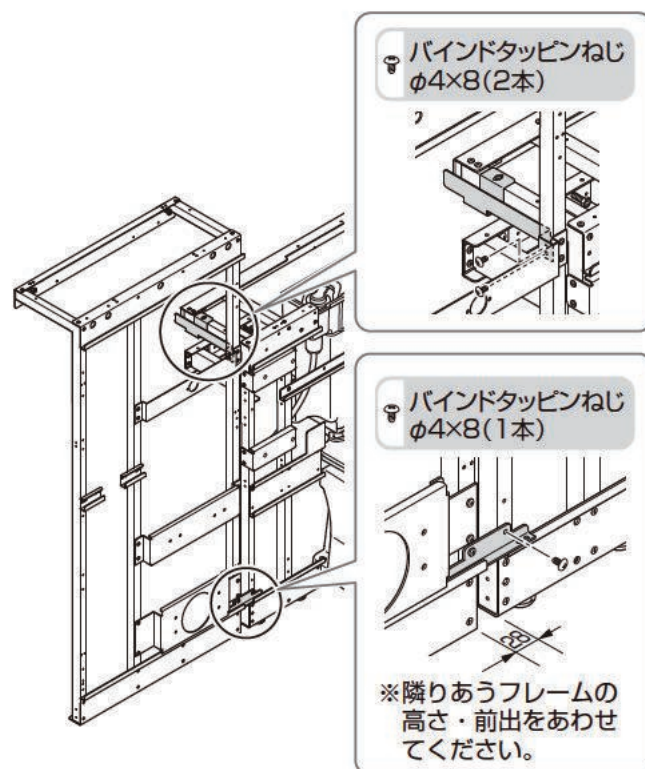
MEMO

6 幼児用小便器部フレーム の取付準備、取り付け

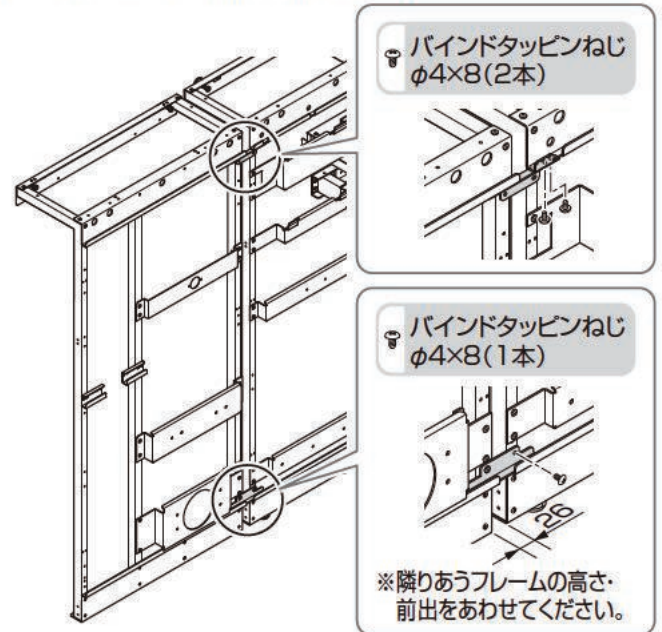
1 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)



2 連結材の取り付け 【大便器部と連結する場合】

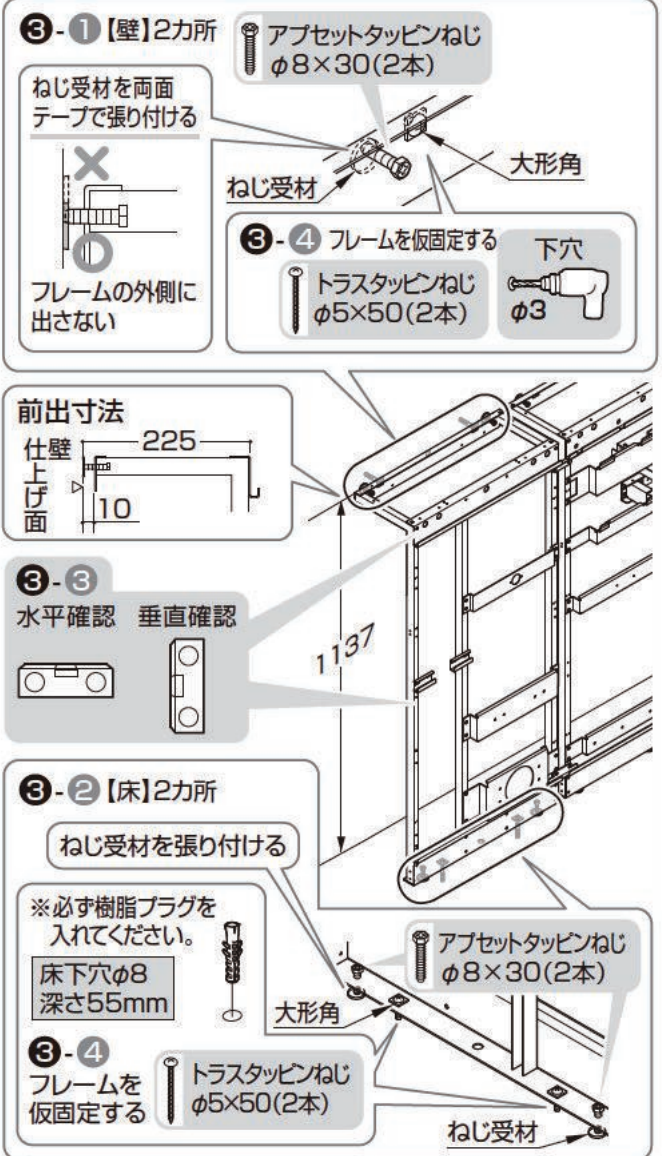


【ベビーチェア・ボード部に連結する場合】



3 フレームの調整、仮固定

※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。



7 汚物流し部フレームの取付準備、取り付け

① 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)

【壁】2カ所

10mm程度
フレームから突き出す

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

中心の穴は
使用しない

250mm以上の
ロングビット

【床】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

中心の穴は
使用しない

15mm程度
フレームから突き出す

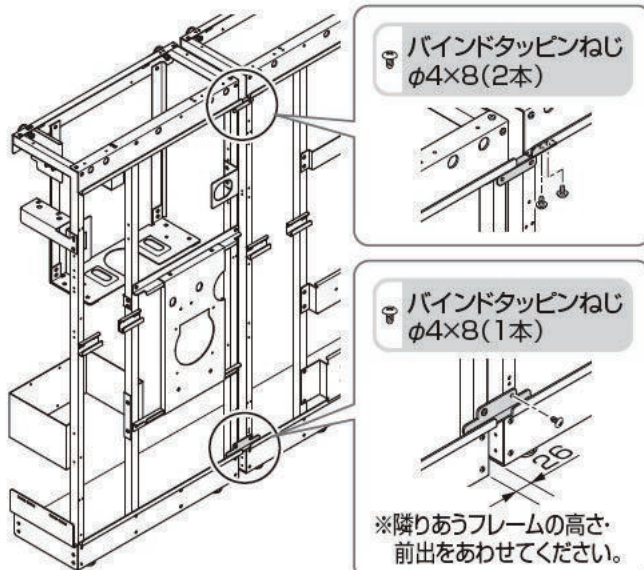
② 連結材の取り付け 【大便器部と連結する場合】

バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)

バインドタッピンねじ
φ4×8(1本)

※隣りあうフレームの
高さ・前出をあわせて
ください。

【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部と連結する場合】
※イラストは幼児用小便器部と連結する場合です。
ベビーチェア・ボード部の場合も同様です。



③ フレームの調整、仮固定

※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。

③-①【壁】2カ所

アプセットタッピンねじ
φ8×30(2本)

ねじ受材を両面
テープで張り付ける

ねじ受材
大形角
フレームの外側に
出さない

③-④ フレームを仮固定する

トラスタッピンねじ
φ5×50(2本)

下穴
φ3

前出寸法

仕壁 225
上げ面 10

③-③

水平確認 垂直確認



③-②【床】2カ所

ねじ受材を張り付ける

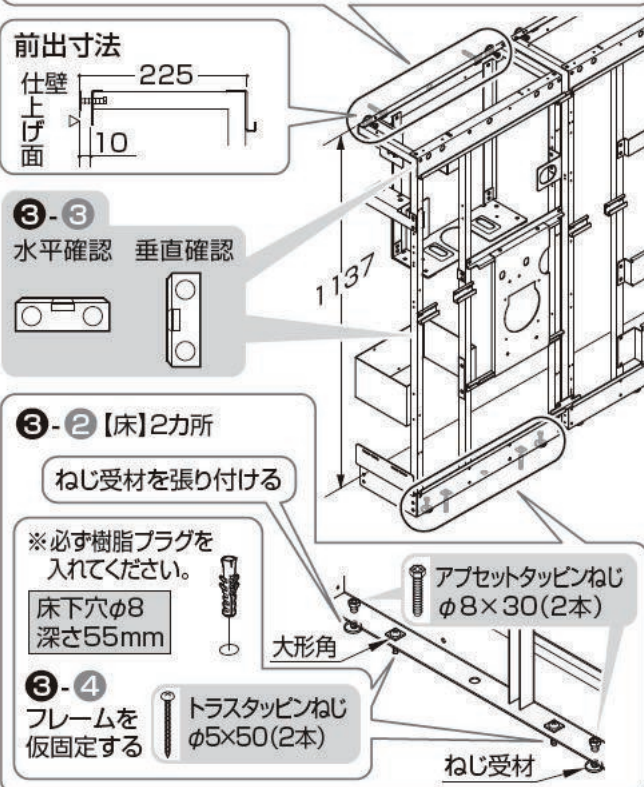
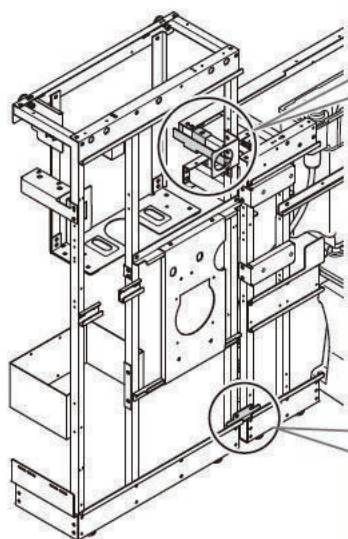
※必ず樹脂プラグを
入れてください。

床下穴φ8
深さ55mm

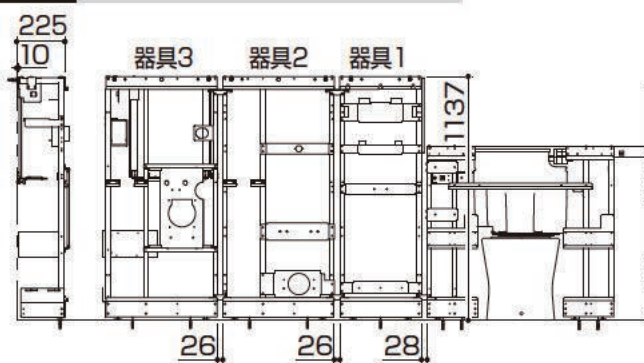
③-④
フレームを
仮固定する

トラスタッピンねじ
φ5×50(2本)

ねじ受材



8 フレームの調整と本固定



- ① フレームの位置調整
大便器部横の器具にあわせて調整する

- ② 各器具のねじを本固定する

MEMO

MEMO

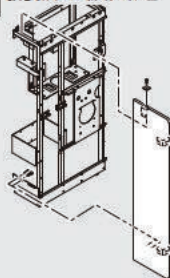
STEP6. フィラー固定材・側板（側板がある場合）

1 フィラー固定材の取り付け



▶ P.51

2 側板の仮固定



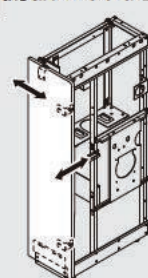
▶ P.52

3 側板の準備



▶ P.52

4 側板の本固定



▶ P.53

※本施工説明書では、右勝手のため側板が向かって左側に取り付く場合を記載します。
左勝手の場合は側板が向かって右側に取り付くので左右反転になります。

1 フィラー固定材の取り付け

※大便器部のみの場合は **3** へ進んでください。

【汚物流し部、幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部がある場合】

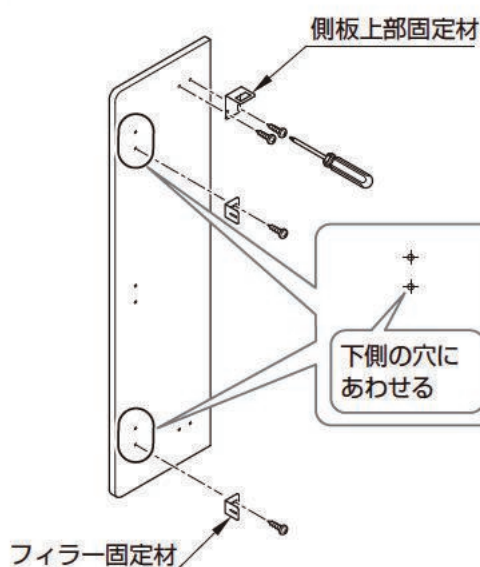
側板あり

フィラー固定材と側板上部固定材をねじで仮固定する

※長穴の中心を目安に手で動かせる程度。

タッピンねじ
φ4×12 (4本)

手締めで



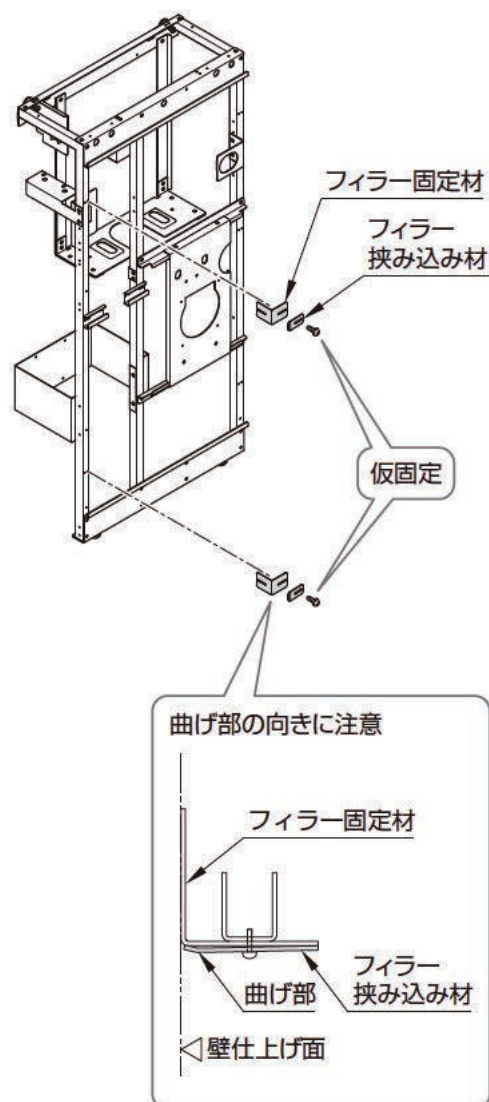
側板なし

フィラー固定材とフィラー挟み込み材をフレームに仮固定する

※図は汚物流し部の場合。

※幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部の場合も同様です。

バインドタッピンねじ
φ4×8 (2本)



2 側板の仮固定

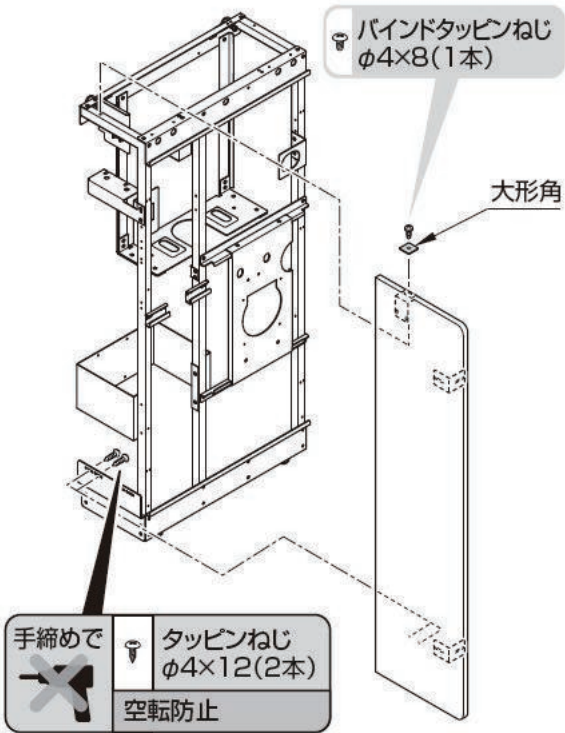
【汚物流し部、幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部がある場合】

※図は汚物流しの場合。

※幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部の場合も同様です。

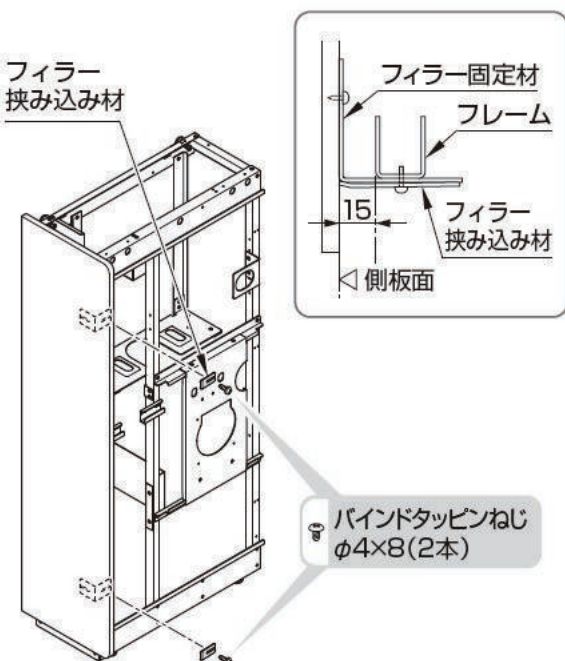
① 側板を側板下部固定材と側板上部固定材にて仮固定

※長穴の中心を目安に手で動かせる程度



② フィラー挟み込み材をフィラー固定材の位置に仮固定する

※側板を動かせる程度



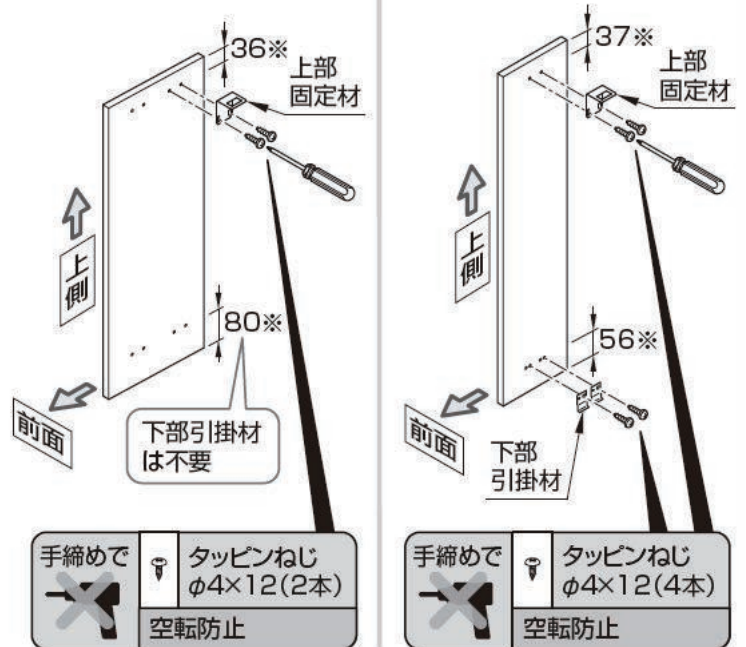
3 側板の準備

大便器部/操作系部/洗面器部

① 上部固定材と下部固定材と下部引掛材を固定

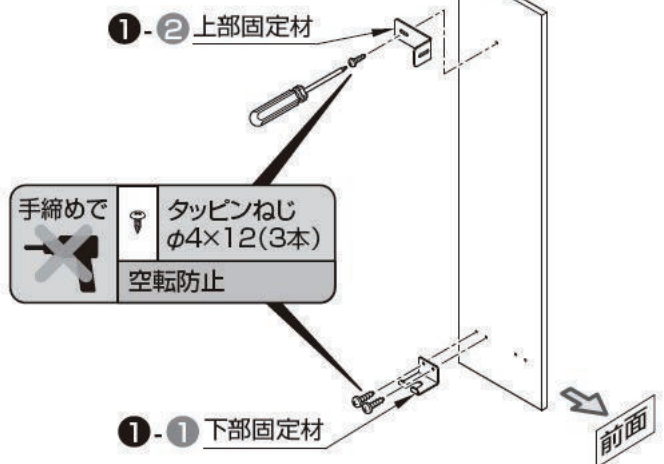
【車いす・オストメイト配慮セット (大便器部) の場合】

【車いす使用者優先配慮セット (大便器部) の場合】

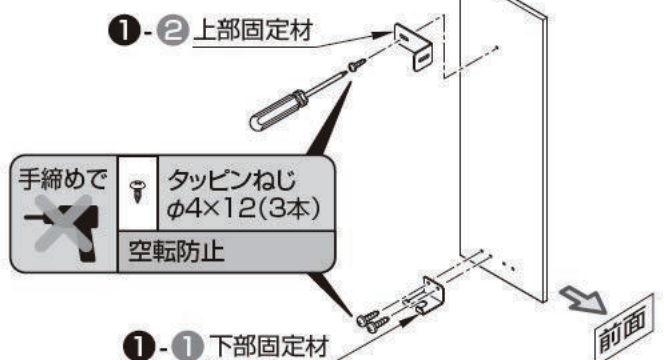


※側板の上下を間違えると甲板の設置ができません。

【操作系部 (洗面器部なしの場合)】

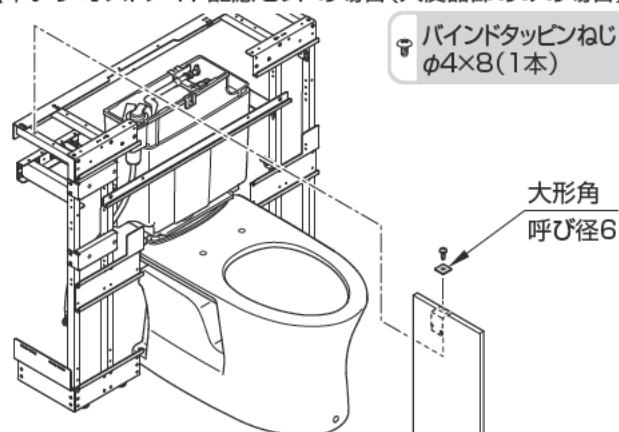


【洗面器部 (洗面器部ありの場合)】

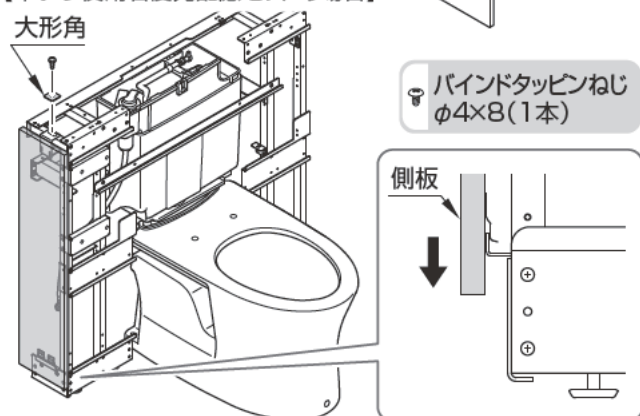


② フレームに側板を落下しない程度に仮固定する

【車いす・オストメイト配慮セットの場合 (大便器部のみの場合)】



【車いす使用者優先配慮セットの場合】



【操作系部 (洗面器部なしの場合)】

手締めで

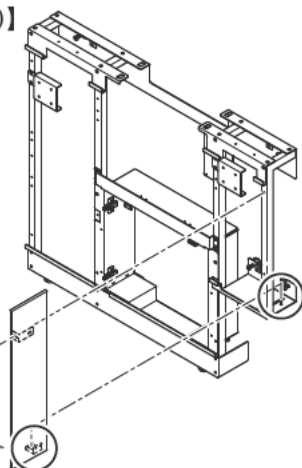


②-①

バインドタッピンねじ
φ4×8 (1本)

②-②

ローレットねじで固定



【洗面器部 (洗面器部ありの場合)】

手締めで

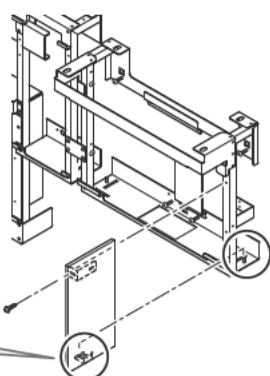


②-①

バインドタッピンねじ
φ4×8 (1本)

②-②

ローレットねじで固定



4 側板の本固定

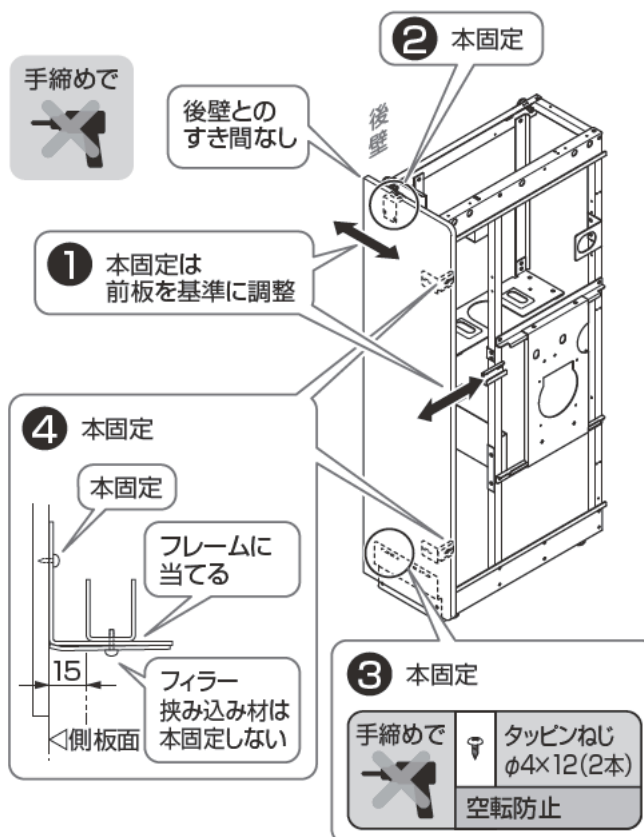
【大便器部のみの場合】

※側板の本固定はP.64「STEP10.側板パネル・前板 (準備)」で行います。

【汚物流し部、幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部がある場合】

※図は汚物流しの場合。

※幼児用小便器部、ベビーチェア・ボード部の場合も同様です。



MEMO

6

ファイラー固定材・側板 (側板がある場合)

STEP7. 汚物流し用排水継手

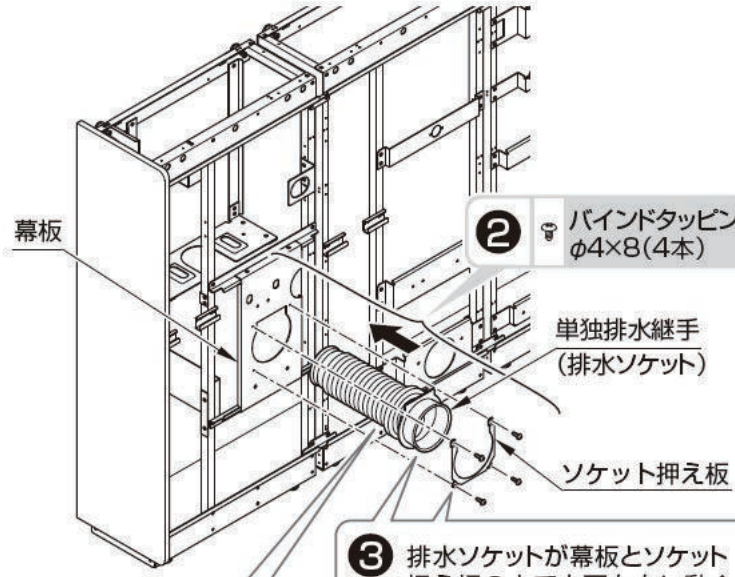
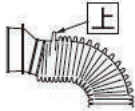
「汚物流しなし」の場合
P.55「STEP8. 止水栓」に進んでください。



パッキンはSTEP16で使用

▶ 単独排水継手施工説明書参照

1 単独排水継手の向きを確認



3 排水ソケットが幕板とソケット押え板の中で上下左右に動くことを確認

4 内周塗布



塩ビ用
接着剤

外周塗布



塩ビ用
接着剤

ジャバラ部

ホースバンド

5 固定

排水管(現場配管)

⚠ 注意



必ず守る

締め過ぎに注意する
水漏れして建物や設備など
をぬらす財産損害発生の
原因となります。

⚠ 注意



必ず守る

- ・ ジャバラ部は必ず排水管に接着する
- ・ ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

MEMO

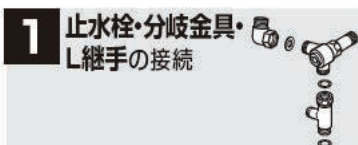
STEP8. 止水栓

【大便器部】と【汚物流し部】で施工方法が異なります。
商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

大便器部

汚物流し部

幼児用小便器部



▶ P.55



▶ P.58



① 止水栓の接続
▶ P.59

② フレキ管の接続
▶ P.59

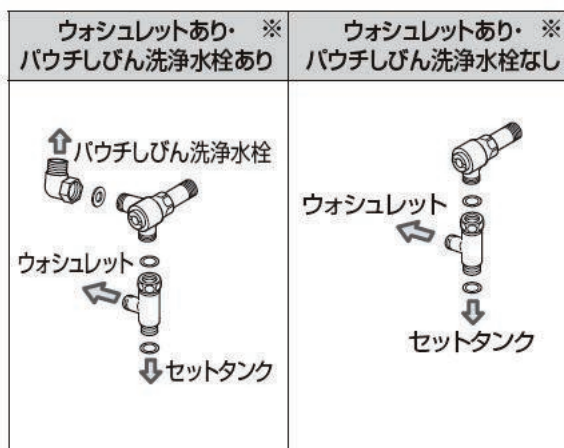
大便器部

1 止水栓・分岐金具・L継手の接続

【車いす・オストメイト配慮セット、乳幼児連れ配慮セットの場合】

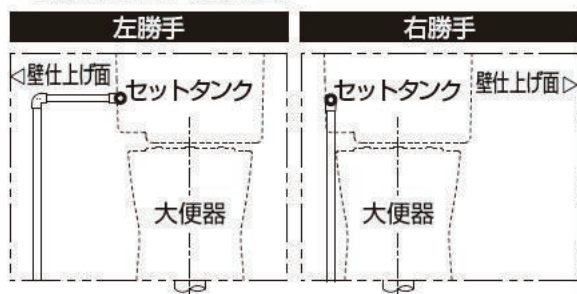
選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。下表に従い、図の向きにあわせて取り付けてください。

水道水仕様の場合

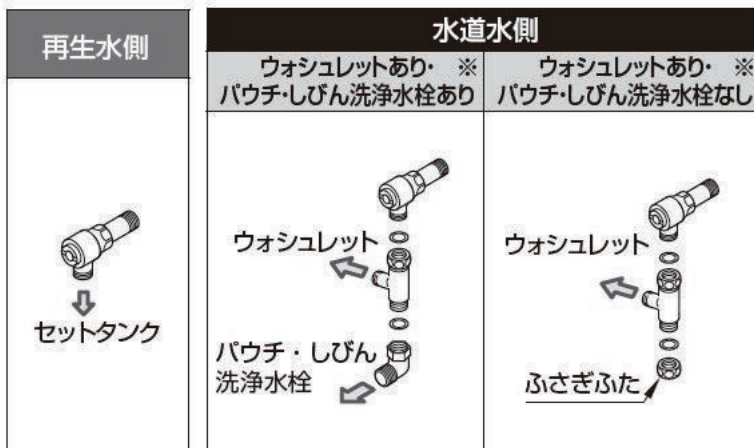


※分岐金具はウォシュレットに同梱

<給水立ち上げ位置>



再生水仕様の場合



※分岐金具はウォシュレットに同梱

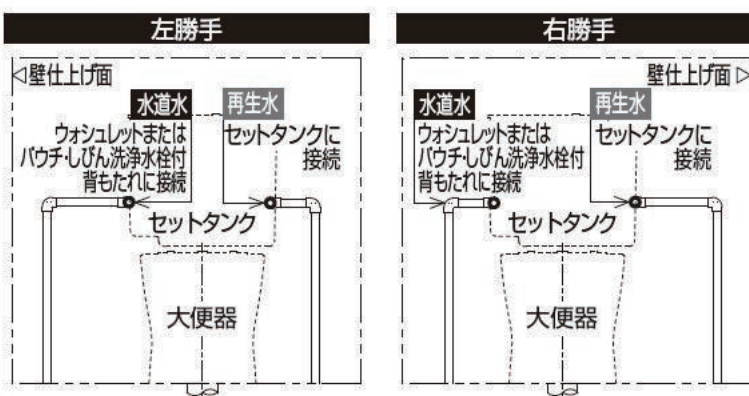
<止水栓位置>

！ 注意



必ず守る

再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする
故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。



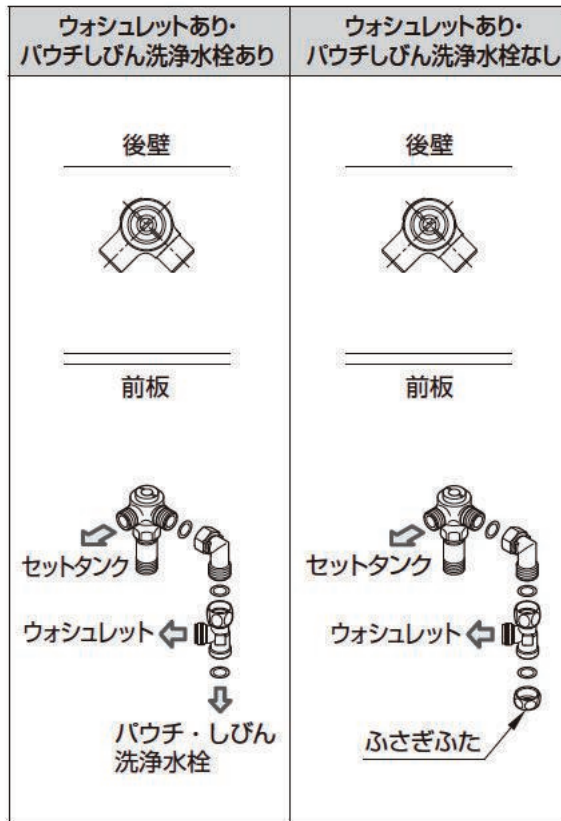
大便器部

【車いす使用者優先配慮セットの場合】

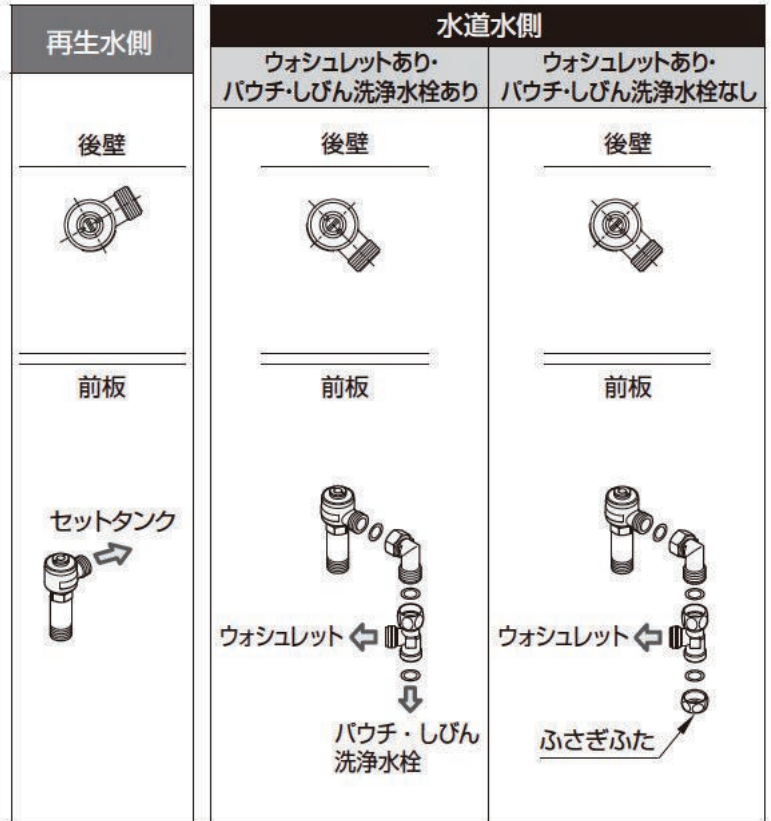
選択された仕様により取り付けの止水栓・継手が異なります。下表に従い、図の向きにあわせて取り付けてください。

※図は右勝手の場合です。左勝手の場合の接続は左右反転になります。

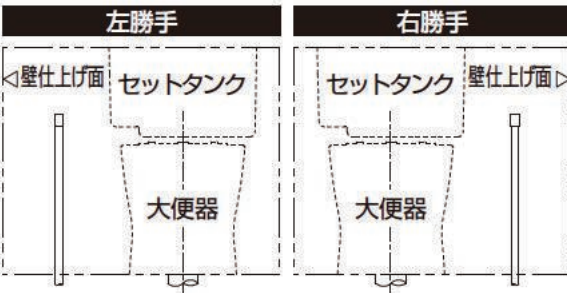
水道水仕様の場合



再生水仕様の場合



<給水立ち上げ位置>



<止水栓位置>

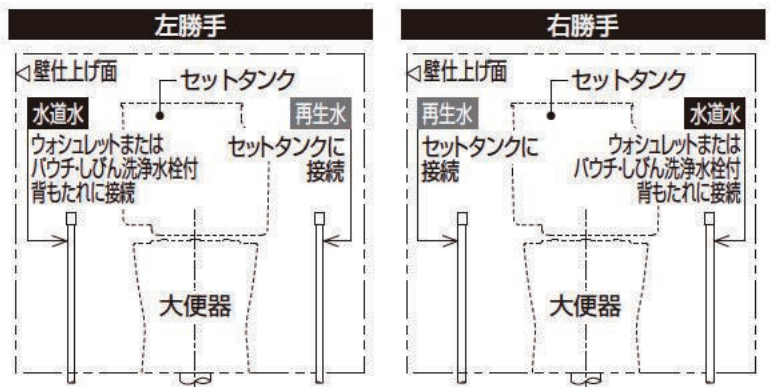
⚠ 注意



必ず守る

再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えない
よう給水接続をする

故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。



汚物流し部 ※大便器部の場合P.60「STEP9.幅木」に進んでください。

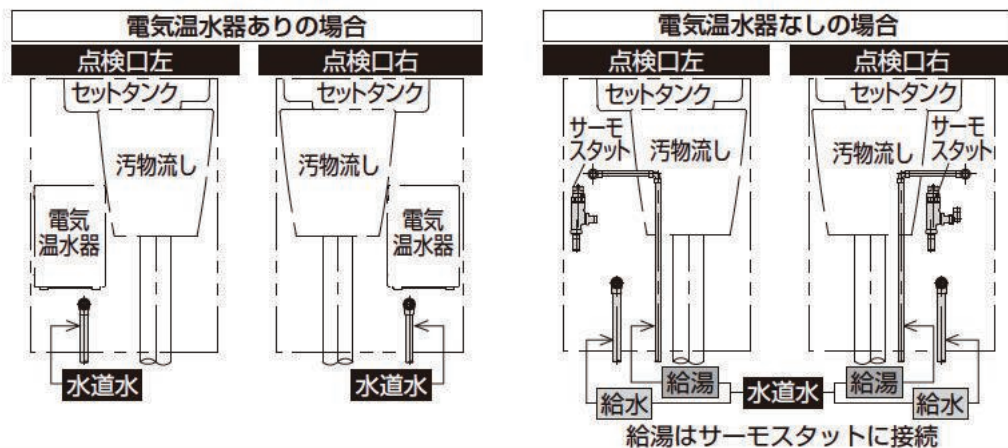
1 止水栓・分岐金具・L継手の接続

選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。
下表に従い、図の向きにあわせて取り付けてください。

水道水仕様の場合

電気温水器あり・点検口左	電気温水器あり・点検口右	電気温水器なし・点検口左	電気温水器なし・点検口右
セットタンク ↓ 電気温水器	セットタンク ↓ 電気温水器	給湯 給湯 ↓ サーモスタット	給湯 給湯 ↓ サーモスタット ※フレームに付いています

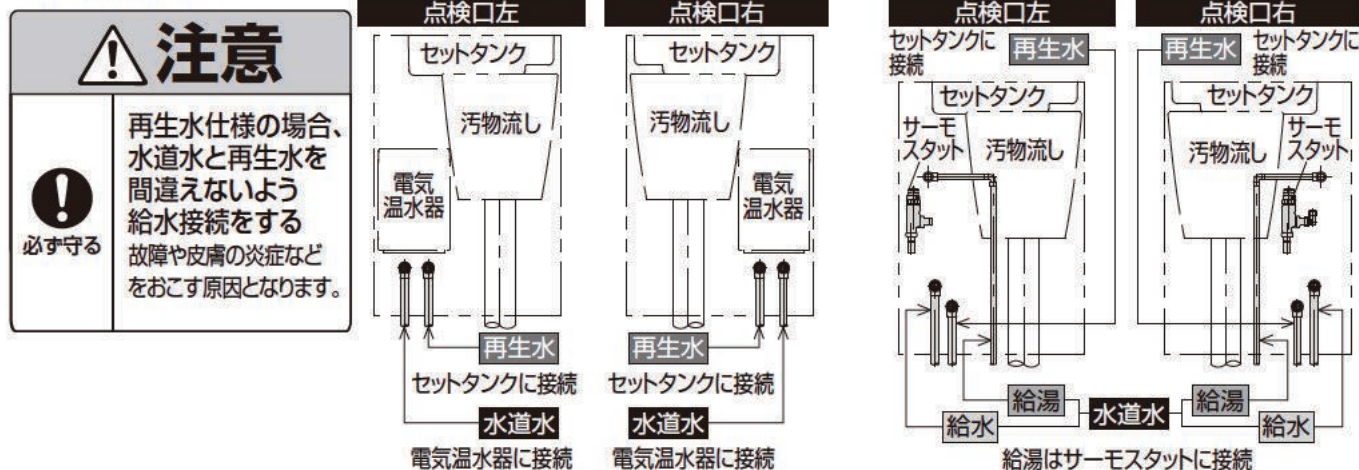
<給水立ち上げ位置>



再生水仕様の場合

再生水側	水道水側		
	電気温水器あり	電気温水器なし・点検口左	電気温水器なし・点検口右
点検口右 セットタンク ↓ 電気温水器	左右勝手とも下向き 給湯 ↓ サーモスタット	給湯 給湯 ↓ サーモスタット	給湯 給湯 ↓ サーモスタット ※フレームに付いています

<止水栓位置>



注意



必ず守る

再生水仕様の場合、
水道水と再生水を
間違えないよう
給水接続をする
故障や皮膚の炎症など
をおこす原因となります。

汚物流し部

2 サーモスタット・止水栓の接続

下記表を参考に、各止水栓とサーモスタットをフレキホース・フレキ管で接続します。

サーモスタットの接続先	長さ
止水栓(給水管用)フレキホース	約600mm
止水栓(給湯管用)フレキ管	約500mm

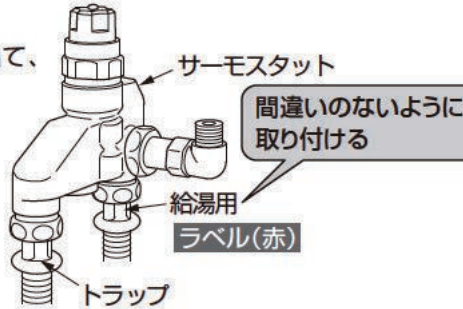
警告



禁止

湯水を逆に接続しない
水を出そうとした際に湯が出て、
やけどの原因となります。

【サーモスタットの取出口】
・奥(壁)側…給湯用
・手前側…給水管



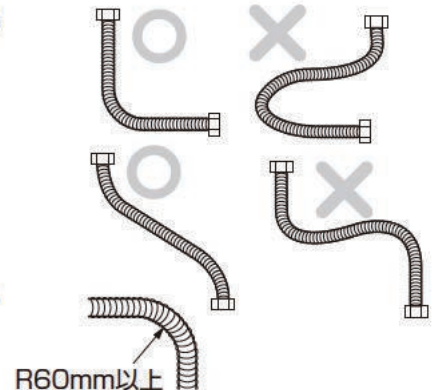
【フレキ管】

注意



必ず守る

- ・フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。
- ・フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる
フレキ管は小さい角度で曲げないでください。
また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- ・1～2回程度の曲げで所定の形にする
曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。
- ・必ず同梱のパッキンを使用する
- ・袋ナットは十分締め付け、取付後、水漏れがないことを確認する
- ・フレキ管は極端に折らず、R60mm以上を確保する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



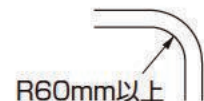
【フレキホース】

注意



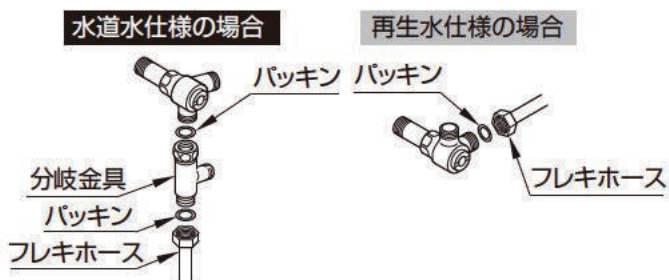
必ず守る

- ・フレキホースの取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。
- ・必ず同梱のパッキンを使用する
- ・袋ナットは十分締め付け、取付後、水漏れがないことを確認する
- ・フレキホースは極端に折らず、R60mm以上を確保する
- ・フレキ管とフレキホースは接触させない
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

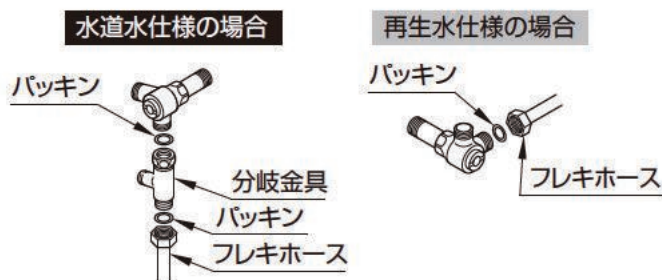


止水栓(給水管用)は一方の口をサーモスタットと接続し、もう一方の口はシングルレバーと接続します。
下記を参照して、接続する口を間違えないよう取り付けてください。
シングルレバーの給水・給湯ホースの接続 ▶P.85「STEP17.汚物流し用セットタンク 8」参照

点検口左の場合



点検口右の場合



⚠ 注意



接続する給水口を逆に配管しない

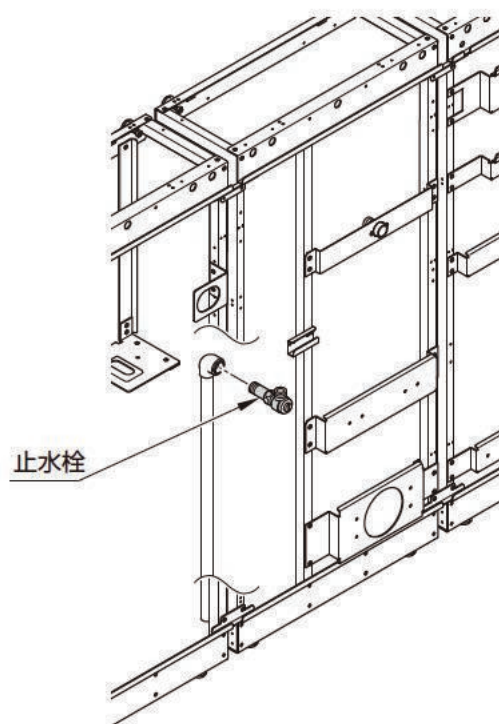
フレキホースに無理な力がかかってキンクの原因となり水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

幼児用小便器部

3 止水栓の接続

※イラストは点検口左の場合ですが、点検口右の場合も同様です。

① 止水栓の接続



② フレキ管の接続

